

ボトックス治療、嚥下内視鏡検査を始めました。



リハビリテーションセンター長
白倉 賢二

リハビリテーション医療には脳血管（脳卒中など）、運動器（骨折など）、呼吸器、心大血管（心疾患など）疾患の4分野と、がんリハ、難病リハ、身体障害者リハ、精神科作業療法などがあります。当院は脳血管疾患（Ⅰ）、運動器（Ⅰ）、呼吸器疾患（Ⅰ）、がんリハの施設認定を受けております。

脳血管疾患リハは主に入院中の急性期の患者さんが対象ですが、発症後長期間経過し、手足の変形（握ったままの手指、曲がったままの肘、膝や尖足等）を残して固まってしまった患者さんの筋肉に注射をして柔らかくし、動くようにする治療（ボトックス治療）も行っています。



ボトックス治療

運動器疾患については手足の骨折などの他に、本院は手外科の専門病院であり、手の外傷・障害の患者さんが県内外の病院から集まってきます。手の機能障害は、仕事や日常生活に大きな支障を来します。手の治療には高度な専門性が要求されます。当院は手外科の治療経験が豊富な療法士を配置しております。

近代医療では内部障害のリハとして呼吸器や循環器疾患のリハの有用性が証明されております。呼吸器は主に胸部、腹部の周術期、肺炎後やICU、人工呼吸器からの離脱、慢性呼吸器疾患（COPDなど）に大きな成果を上げております。

従来は安静が重要であるとされた肝疾患、腎疾患、血液疾患に対してもそれぞれに適した運動療法があり、腎障害に対する運動療法は透析への導入を遅らせる効果があるとされております。透析患者さんに

は、透析中の運動療法を指導して、体力の改善を図っております。心筋梗塞、心不全や心臓手術、カテーテル治療の術前後における心大血管疾患リハもその有用性が証明されております。

当院では最近摂食嚥下障害への対応に力を入れております。言語聴覚士を配置し、嚥下障害の診断に嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を導入し、治療を行っております。



嚥下内視鏡検査

がんリハは、白血病を含むがんの特殊性に配慮したもので、多くの患者さんのQOLの向上に欠かせないものとなっています。当院では全ての患者さんに適したリハ医療を行い、廃用症候群の発症を防ぐように務めております。当院リハ科では膝関節、股関節、肩関節などの関節疾患や骨粗鬆症の治療にも力を入れており、変形性膝関節症や関節リウマチに対する人工関節手術などを得意としております。その他すべての領域の疾患に対する運動療法、リハ医療の要望にお応えします。



リハ科スタッフ